

## ウィリアム・メレル・ヴォーリズと近江八幡

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880-1964）は、アメリカ生まれの建築家、実業家、キリスト教宣教師であり、その生涯の大半を近江八幡で過ごし、現在も近江八幡に豊かな遺産を残している。

ヴォーリズは 1905 年、滋賀県立商業高校（現在の八幡商業高校）で英語を教えながら、宣教師として近江八幡にやってきた。旺盛な布教活動と瞬く間に多くの生徒を集めたバイブルクラスは、異国の宗教が広まることを懸念した地元住民の反発を招き、2 年で教師を解雇された。

それでもヴォーリズは、布教活動の資金を得るために別の仕事をしようと考え、1908 年に自分の建築事務所を設立した。主に独学で建築を学んだヴォーリズは、学校、病院、ホテル、デパートなど約 1600 の建築物を設計した。

また、ヴォーリズは実業家としても知られ、本国アメリカで開発されたメンソレータムという医療用軟膏を輸入販売する会社を設立するなど、建築以外にもさまざまな事業を行っていた。また、出版や教育の分野でも活躍し、自ら設計した学校や医療施設の建設資金を集め、近江八幡の地域振興に貢献した。

ヴォーリズは、近江八幡を世界の中心地と考え、そこにユートピアを築くことに生涯を捧げた。彼の気質と、勤勉・儉約・奉仕の精神は、近江八幡の商人気質と相通じるものがあった。1958 年、ヴォーリズはその功績が認められ、近江八幡市初の名誉市民の称号を授与された。

近江八幡には旧八幡郵便局や終の棲家となった、現在は博物館として公開されているヴォーリズ記念館など、ヴォーリズが設計した 20 以上の建物が残っている。また、彼がメンソレータムを販売するために設立した会社は、現在も近江兄弟社という社名で、メンソレータムに似た「メンターム」を販売している。会社の前にはヴォーリズの銅像が建っている。